

なまえ【 】

神戸新聞 2020年12月23日 水曜日 面名 タニ社 タ4 6ページ



① 1.69秒で 96キロ

「①」世界一「EV完成

大阪市の技術系人材派遣会社「アスパーク」が、アクセルを踏んでから1・69秒で時速60キロ（約96キロ）に達し加速力が世界一という電気自動車（EV）「アウル」を開発し、12月から販売を始めた。

50台限定の受注販売で価格は約3億5千万円。開発責任者の寺門翼さん(29)は「大衆向けの車ではないが、気に入ってくれる人が1%でもいれば」と期待を込める。
同社の吉田真教代表取締役(46)が「技術者の力を結集させて世界で唯一のものをつくりたい」と2012年に社内公募を実施。医療用ロボットや芝刈り機などが候補に挙がった中で、パーツ数が少なく開発予算で実現可能な「電気自動車のアスパーク」が選

② 大阪の人材派遣会社 開発5年、 1億5千万円で発売

ばれ、15年に試作が始まった。

エコや低燃費というイメージが強いEVの可能性を広げたいとし、目標を「加速世界一」に設定したが、最大の課題となったのがタイヤ。「車両の馬力は十分だったが、タイヤと路面がうまくかみ合わず空転してしまう、加速に時間がかかった」と寺門さんは振り返る。タイヤメーカーと協議を繰り返して、試作品の改良を重ねた。

技術者と営業担当者の9人で構成された開発チームは18年から、製造工場があるイタリヤ・トリノで準備を進めてきた。これまで国内外の約30社、100人以上の技術者が携わったという。

③ 同社によると、海外で4件の購入注文があり、国内でも数件の問い合わせが入っている。開発チームは次のプロジェクトとして「空飛ぶ車」なども構想。寺門さんは「世界に誇れるものづくりをするため、これからも新しい挑戦を続けた」と意気込んだ。

「アスパーク」が発売を始めた電気自動車「アウル」

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① 記事から見出しの言葉を考えましょう。

② 1. 69 秒で 96 キロ

③ 「 世界一」EV 完成

④ 大阪の人材派遣会社 開発5年、 1億5千万円で発売

⑤ 電気自動車（EV）のイメージはどういうものですか。

や というイメージが強い

⑥ 開発で、最大の課題となったのは何ですか。

と路面がうまくかみ合わず空転してしまう

⑦ 電気自動車（EV）が世界で開発されている理由は何ですか。